

多自然川づくり取組事例

タ イ ト ル : 雨竜川の多自然川づくりについて ～多様な場の保全・創出に向けて～		
水 系 / 河 川 名 : 石狩川水系 / 雨竜川		河 川 分 類 : 中小河川
河川の流域面積 : 1,722	整備計画流量 : 600～1,000m ³ /s	セグメント : 1
事 業 : 河川改修	事業開始年度: 令和5年度	
目 標 設 定 : 定性的	段 階 : P(計画時)	
課題・目的(主な): 流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全		
工 法 (主 な) : 築堤、掘削(高水敷)		
配慮事項(主な): 委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

雨竜川では、近年、洪水氾濫による浸水被害が多発している。これにより雨竜川流域に位置するそばの作付面積日本一の幌加内町では、そばの収穫量が減少するなどの被害が生じている。これを受け、国によるダム再生事業と北海道による河川整備が連携した治水対策を進めるため、令和5年度より河川改修に着手している。

<課題>

雨竜川には、森林性の植物や鳥類が生育・生息する河畔林やエゾサンショウウオや湿生植物が生育・生息する湿地環境があるほか、魚類としてはイトウが生息するなど多くの生物が生育・生息している。このため、生物の生育・生息環境を保全・創出しながら河川改修を行うための計画を検討する必要がある。現況河川の保全と湿地環境が創出される河川断面を設定して、イトウなどの生物を支える多様な場となる川づくりを順応的管理により行う必要がある。

<目標>

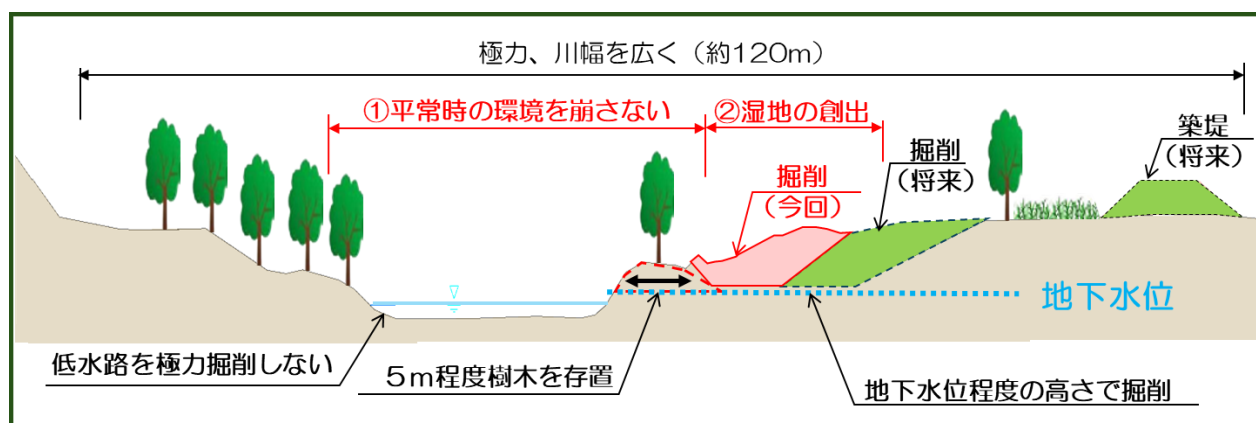
- ・平常時の環境を崩さず魚類等生息場を保全
- ・掘削の工夫による湿地環境の創出



取組内容・対策例(1/2)

①低水路形状と河畔林を保全

- ・低水路の河道形状と河畔林を極力保全するために、堤間幅を広くとり流下能力を確保した。
- ・魚類の隠れ場となる水際部のカバーを保全するため、河畔林を保全する計画とした。



取組内容・対策例(2/2)

②湿地環境の創出検討

[試掘の実施]

・河道掘削高を地下水位程度とするため、試掘を実施し適切な掘削断面を設定

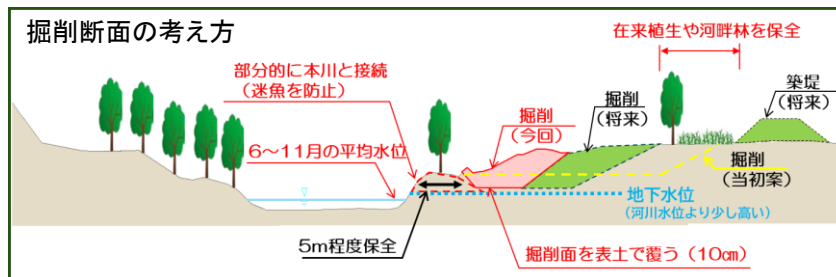
[掘削断面の考え方]

・適度な出水と地下水を活用して湿潤を目指す

・試掘の結果 → 地下水位≒河川水位+0.2m

・融雪期を除き、6～11月の平均流量である10m³/sを河川水位に設定

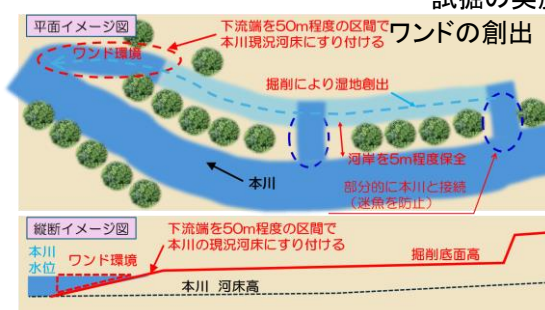
・掘削面をシードバンクとなる表土で『+0.1m』覆い、早期植生回復と湿性植物の創出を期待



[ワンドの創出]

・湿地掘削の下流端を50m程度の区間で本川現況河床にすり付け、ワンド環境を創出

・部分的に本川と接続して迷魚を防止



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

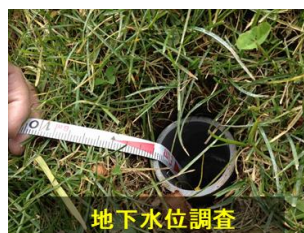
<今後の対応>

[モニタリング計画]

・暫定整備においてモニタリングを行い、将来の掘削断面に活用できる知見を蓄積する。

「モニタリング項目」

- ①水文調査(R7年度～)
 - 地下水位調査、掘削面の湿潤状況調査
- ②植物調査(R6年度～)
 - 空中写真撮影(植生回復状況確認)
 - 植生横断調査、群落組成調査
- ③両生類等調査(R7年度～)
 - 産卵状況調査、水生生物捕獲調査



<アピールポイント>

[関係者との共有・連携]

・現地に於て、有識者、幌加内町、朱鞠内漁協、北海道開発局と共に現地意見交換会を実施。

・国と北海道が進める雨竜川の治水対策を機に地元や学識者などと地域づくりの会話がはじまっており、今後も関係機関の方々と連携しながら雨竜川の河川改修工事を推進する



備考

問合せ先	北海道上川総合振興局旭川建設管理部事業室事業課
電話番号	0166-26-4466